

**平成25年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)  
1対1対談(名張市)会議録**

1. **開催日時** : 8月3日(土)10時30分～11時30分
2. **開催場所** : 名張市武道交流館いきいき 多目的ホール  
(名張市蔵持町里2928)
3. **対談市町長名** : 名張市(名張市長 亀井 利克)
4. **対談項目** :
  - 1 産み育てるにやさしいまち“なばり”
    - ① 少子化対策について
    - ② 生活困窮者への支援について

**5. 会議録**

**(1) 開会あいさつ**

**知事**

皆さん、おはようございます。

亀井名張市長、どうもありがとうございます。

また、子育ての話もするので、土曜日の午前中という子育てや家族にとって大変重要な時間であるにもかかわらず、こういう形でたくさんの皆さんにお越しをいただいて、感謝を申し上げたいと思います。

この1対1対談は、私が就任以来、やらせていただいて、亀井市長とは今回で3回目ですが、この名張市さんで行われるのは、いつもワンテーマに絞ってとことんやるというような形で、他の地域と違うオリジナルな亀井カラーたっぷりでやらせていただいていますので、私も非常に楽しみです。こういうオープンな場で、1時間という限られた時間ではありますが、一つの課題について深掘りしながら話をする。それが半歩でも一歩でも前へ進む答えを出していく、そういう大変重要な時間だと思しますので、今日も有意義に過ごしたいと思います。

今日は、子育てや少子化の関係の話をさせていただきます。途中でも申し上げたいと思いますが、私自身も今1歳の息子がおりまして、国のいろんな子育てや少子化の議論ってちょっと都会目線な感じもします。私は、「少子化危機突破タスクフォース」というおどろおどろしい名前の委員も国でやらせていただいて、地方目線、当事者目線の訴えを今、させていただきますところから、今日、亀井市長とお話をして、勉強させていただきます。そういう思いも伝えていくようなこともしていきたいので、どうぞよろしくお願ひします。

## 名張市長

どうも皆さんおはようございます。大勢の皆さんに足をお運びいただきまして、誠にありがとうございます。

この知事と市長の1対1対談、知事の紹介のとおり今回が3回目でございます。ずっと全県下を回っていただいています。知事さんも3年目を迎えられたということで、29の市と町がありますが、知事と29の市長、町長との1対1対談によって信頼関係がより深まってきており、ご同慶に堪えないところです。

また、これまで2回の対談の中で、1回目は地域医療をテーマにさせていただきました。2回目が森林、林業、農業活性化をテーマにさせていただきましたが、それぞれ提案をさせていただいた事項、要望は大方のものをかなえていただいております、本当に感謝に堪えないところでございます。

今回は、1つ大きく、時間があればもう1つやりたいと思っております。1つは、「産み育てるにやさしいまち」、子ども・子育てを中心に、もう1つは、「生活困窮者の自立支援」ということです。どうか皆さん、最後までよろしくお願いいたします。

## (2) 対 談

### 1 産み育てるにやさしいまち “なばり”

#### ① 少子化対策について

## 名張市長

まず、1項目目ですが、「産み育てるにやさしいまち」ということをテーマにしたいと思えます。

今、日本の高齢化率は25%です。4人に1人が65歳以上の方ということです。それで、名張は若い町と言われていたのですが、ちょうど今、全国平均と重なりました。全国平均でいきますと、後15年しますと、33%ぐらいになります。33%ということは、3人に1人が65歳以上の方、2人で1人を支える社会、後また15年したら40%ぐらいになります。1人を1人でとなりますが、名張の場合は後7年したら33%ぐらいになり、また、7年したら40%ぐらいになります。ですので、全国平均の倍のスピードで高齢化が進んでいる町です。この高齢化に少しでもブレーキをかける、あるいはストップをかけていく、そのために出生率を上げていく、子ども子育てを充実させていく、これが名張市の最も大きな政策の柱であり、この10年間、いろんな施策を講じてきました。

国の方も今までエンゼルプラン等、国と県と市町村が協働して事業を進めてきましたが、ちょっと本気度が足らなかつたかと思っています。それは、社会保障の給付費が今110兆円ぐらいあります。そのうちの高齢3給付と言われていた年金、医療の半分と介護で80%が使われています。

子ども・子育てはというと5兆円ぐらいで、5%にも満たないような状況です。これを充実していただかなければなりません、国もいよいよ本気度が出てきたなど私は思っています。

昨年、子ども・子育て3法案を成立させ、そして、緊急対策として3本の矢が放たれました。これは、安倍首相のアベノミクスの3本の矢ではございませんで、子ども・子育ての3本の矢。1本目の矢は、結婚・妊娠・出産への切れ目のないきちとした支援をやっていく。2本目の矢は、子ども・子育てを充実していく。3本目の矢は、働き方を改革していく。結婚して妊娠して出産しても仕事を辞めずずっと続けていけるような環境をきっちりと整えていこうという3本の矢が放たれたところです。

先ほど知事から紹介がございましたが、知事は国のタスクフォースの委員さんでもあり、県もかなりやる気を出していただいています、この7月に少子化対策総合推進本部を立ち上げられ、知事が本部長に就任されました。そこで、今から知事の本気度をいろいろ聞かせていただこうと思っています。

それで、一つは、これまで行政は出会いの場を作っていくことはしませんでした。ところが、県が先般調査したものをを見せていただきますと、「なぜ結婚しないのですか」という調査の中で、一番多かったのは「出会いの場がない」ということでした。2番目が「意中の人がない」。3番目が「経済的な問題」です。出会いの場づくりは、行政に馴染まないかと思っていたのですが、これをやり出すところがどんどん出てきています。鳥羽市では、今、3組ぐらい結婚までいっています。

私の知り合いで浦安市の松崎市長さんがいらっしゃいますが、この方は、今まで500人ぐらいの規模のものを3回か4回に分けて。そうしたら、33%ぐらいの確率でカップルができるらしいのです。それが結婚までいったかどうかは、まだ調査はしてないようですが、カップルが33%できるということですので、そういう婚活の場を作ることは非常に重要だと思っていまして、名張市もこれからそういう事業をやっていきたいと思っています。これは、基礎自治体でまずはやらなければならないことです。

次に、名張市の保健師が、妊娠なさった方に対して出産回数とその気持ちに関して聞き取り調査をしました。1人目や2人目を妊娠したときは、「うれしい」と答えた人が86.5%でした。3人目の子どもさんのときは「うれしい」と答えた人が69%で、「不安」と答えた人が31%でした。それで、「予定妊娠でしたか」とお聞きしますと、1人目や2人目のときは「予定です」という方が74%で、3人目は48%でした。

また、「経済的に不安がありますか」という質問に対しては、1人目や2人目のときは、「経済的に不安があります」という方が8%ですが、3人目になった

ら 15%の方が「不安です」とお答えになっています。3人目というのはこれから子育てしていくポイントになってくると思っています。

そこで、知事のご所見をお聞きしたいのですが、1人目を産んで2人目、2人目を産んで3人目としていくのに、産後のケアが非常に重要になってきます。それで、ベテランの保健師や看護師ともうひとつ、「助産師」、この人が産後のケアでものすごくポイントになってきます。

それで、助産師を確保したいのですが、なんと三重県は47都道府県中、10万人あたりの助産師の数は最下位なんです。この伊賀盆地の中ではお一人しかいらっしゃらないという中で、非常に貴重です。県として助産師確保のお手伝いをしていただけないかと思っているのですが、それについて、知事のご所見をお伺いします。

## 知 事

僕も少子化の委員をやらせていただいている、大事なと思うことは、産んでもらうため、増やしてもらうために強制的に何かをするのはダメだけれども、希望がかなうようにしていかないといけないということ。

三重県の皆さんに毎年1月か2月ぐらいにアンケートを取らせていただいて1万人ぐらいの方に聞くんですが、今、結婚していない人、結婚しているが子どもが今いない人、結婚していて子どもが1人の人、2人の人、3人以上の人、それぞれの理想の子どもの数は何人かとお聞きしたところ、子どもがない人でも2人、子ども1人の方も2.2人、お2人でも2.4人、3人でも3.2人ということで、理想と現実ギャップがあるんですね。それは、先ほど市長がおっしゃったように経済的な理由であるとかいろんなことで、子どもがほしいなと思うのに、その希望がかなわないということは、ダメなので、希望をかなえていくように、子育てしやすいように、結婚・妊娠・出産しやすいようにということが大事だと思っています。

出会いの場についても、先ほど市長からありました。昔は近所の方があの人どう、この人どうとか、こんな写真もらってきたけどどうとか、そういうことがあったと思いますが、最近はそういうのがなくて、出会いの場が本当はない。県でいいますと47都道府県の内、基礎自治体が事業をやっているところも含めると、29の県で既に出会いの事業とかをやっているんですね。だから、結婚のことに行政が顔を出すなということがもあるかもしれませんが、一定の役割を果たしていかなくちゃいけない時代に来ていると思っています。

私が大変仲良くしている高知県の尾崎知事という方がいらっしゃいますが、尾崎知事も高校生と小学校6年生の男の子が2人いるんです。尾崎知事は財務省で働いて予算を削る仕事をしていたわけです。こんな無駄な予算要らんとや

っていたんですが、財務省の時に最も地方がやっている予算で無駄だなと思ったのが、結婚支援だったそうです。

今は、「高知県知事になって自治体の少子化対策で最も重要な事業は何かと言われたら、結婚支援と私は答える」と言われてました。それくらいに目線が変われば、地域に足をつけて考えると、大事なものが何なのか、その時代によって変わってくるということなんですね。

そんな中で、話がそれましたが、助産師さんの確保の件です。先ほど市長からもありましたように、三重県は助産師さんの数が、平成22年の時点では、人口10万人当たり16人、全国平均が23.2人ですので、全国平均を下回って、なんと22年末には全国47都道府県中、47位だったんです。人口10万人あたりの数が一番少ない状況でした。

そこで、三重県では22年4月から助産師さんの学校養成所をつくらせていただきました。地道に活動させていただいて、結果、24年末の時点では助産師さんの数が、297人から359人となり、2年間で62人増えまして、人口10万人当たりでいくと、19.5人、全国平均が25で、まだ45位ですが、最下位からは脱出しました。22年と24年を比べた伸び率も、全国平均は7.3%ですが、三重県は20.9%ということで、全国よりも伸びました。22年に養成所をつくり始めたので、21年までは県内に定着してくれる助産師さんが毎年5人ぐらしか増えていかなかったんですが、22年以降は30人前後、県内に助産師さんが定着していただく状況になっています。全国と比べて、あるいは出産をしたいと思う人たち、あるいは妊娠中の人たちの安心を考えれば、まだまだ十分な数字ではありませんが、これからも今申し上げたような助産師さんになれる人を養成する、なった人が離職してしまわないようにいろんな研修やサポートをやっていくということで、しっかりと本気で取り組んでやっていきたいと思っています。

## 名張市長

前向きなご答弁をいただきましてありがとうございます。

それでは、2つ目ですが、名張市はこれから「3人目プロジェクト」をしたいと思っています。一つひとつ着実にやっていきたいと思っていますが、その中でまずは3人目のお子さんに対しての保育料を無料化していきたいと思っています。これまでも3人目の無料化はありましたが、保育所に3人いらっしゃったら3人目を無料化するというものでした。その年代でそんなの難しいです。ですから、お兄ちゃんお姉ちゃんが中学へ行っても、下の子どもさんが保育所なり幼稚園でしたら無料化していく、これをやっていきたいと思っています。これは我々基礎自治体の仕事です。

もう1つは、医療費の無料化です。知事が公約にも掲げられ、そして、当選

してすぐになさったのは、小学校6年生まで無料化していくことでした。市町さんもどうかついてきてくれますかという投げかけの中で、すべての市町が対応させていただいて、小学6年生まで今は無料になっています。それを3人目以降の子どもさんは、突きだして中学3年生まで無料化していけないかと思っているのですが、これについて鈴木知事のご所見をお聞きします。

## 知 事

僕が内閣府の少子化の委員をやらせていただいて最初に議論したのは、1人目、2人目、3人目のときにどういう課題があるかということで、1人目の出産にあたっては、女性の両立の支援、働き方の部分における支援が大事ということが出ました。1人目から2人目になるときは、特に父親のサポートや家事・育児への参画の度合いが高かったり満足度が高いと、1人目から2人目にチャレンジしようというようなことが多いという議論でした。

2人目から3人目というのは、経済的負担が一番大きいという課題が我々のタスクフォースの研究でありました。そういう意味で市長が今おっしゃっていただいたように、3人目の経済的負担を軽減する取組は大変重要だと思います。

そこで、私たちはそういう少子化の委員をやらせていただきましたので、まず、意見したのは、まさに市長がおっしゃっていただいた、今、保育所に同時入所した場合のみ、3人目の無料化となっている同時入所の条件を取っ払ってほしいと。それで、国全体でやれるようにしてほしいというのを一番に出させていただいて、今、政府で検討中となっています。実態上も、今、市長がなかなかそんな年齢構成上難しいとおっしゃっていただいたように、年齢が離れて子どもがいるケースが結構多くなってきていますし、不妊の問題とかもいろいろあり、同時入所が実態に合っていないというようなデータもありますので、そういう形で今はまず国に投げかけています。そのうえでどうするか県として国の答えが出た後に考えたいと思っています。

次に、医療費の問題ですが、医療費は今回、私が知事にならせていただいてやらせていただきました。その結果、後はそれぞれの基礎自治体によって中学校までやっているところもあるし、それぞれで上乘せしていただいたりしているところもあります。この医療費助成については、障がいを抱える方々についても考えていかないといけないので、これから基礎自治体の皆さんと議論をしていきたいと思っています。今、県が国に対して言っているのは、三重県のように小学校6年生まで県と基礎自治体で半分ずつ出させていただいているのは、47都道府県中、1県、熊本県だけを除いて46の都道府県において、やっているんです。ということは、国全体でやっている話なので、国が小学校へ入るまでの部分を、今回の社会保障の改革の中で制度化していけば、地方の財源が浮いて

くるので、3人目だけ中学校3年までいけるようにするとか、障がいを抱える方々に手厚くできるようにとか、いろんなバリエーションが出てくると思います。ここも今、国の答え待ちになっている部分ですので、そういうことも踏まえて、今、市長と問題意識を共有でき、大変重要な論点だと思っています。

## 名張市長

知事は、子ども・子育てのリーダー的な知事として、今、かなり先頭を切ってやっています。制度は後からついてくるということもございますので、突破してやっていただくこともご検討をいただければと思っています。

それから、子どもさんが感染症にかからず健やかに成長していただく、そのための予防接種は非常に重要です。予防接種については、今、ヒブワクチンと肺炎球菌と子宮頸がんを無料化しています。今、風疹が非常に流行していますから、これをなんとかということ知事のご英断によって制度が作られて、市町と連携してこれも半額の補助でやらせていただいています。

また、名張市ではロタウィルスもやっています。ロタウィルスの半額を補助していますが、大体該当の方の半数が受けていただいています。これから、これをどんどん広げていきたいと思っています。おたふく風邪（流行性耳下腺炎）、水痘（水疱瘡）、B型肝炎と、そこまでしていきたいと思っていますが、これも県として4分の1補助の制度ができていかないかと思っていますが、この辺の知事のご所見をお願いします。

## 知事

予防接種の重要性は本当に理解をいたしますし、今、市長がおっしゃっていただいた取組を先進的にやっていますのは大変理解できますが、今回、この予防接種のことは前向きにはいかないかと思っています。一応予防接種は全国一律で行われる、あるいは基礎自治体の事務もあって、風疹については、今までにないグッと増える状況がありましたので、緊急的に対応をさせていただきましたが、今の予防接種の部分については、大変重要なのは分かりますし、国もそれぞれ、水痘（水疱瘡）、おたふく風邪（流行性耳下腺炎）、B型肝炎、ロタもそれぞれ研究して、25年度末に結論を出す。さっきの子宮頸がんなどと同様に無料化できるかどうか、25年度末までに結論を出すと言っておきますので、そこを見るというようなことで考えたいと思っています。なので、予防接種については、あまり前向きな答えにならずに申し訳ないですが、そういうふうに考えています。

## 名張市長

これは多額の予算も要ることですので、国の方もお手伝いしていただければいいなと思いますし、国へも強くそれぞれの筋からも要望させていただいていますので、タイミングを見ながら対応いただけたらと思います。

続いて、私共名張市の 10 年来の悲願でしたが、子どもをお持ちのお父さん、お母さんが最も心配なことは、いざ急病になったときに、24 時間、365 日受ける病院があるかということです。残念ながら、名張、この伊賀地域は、医療過疎とも言われ、そういう病院は今ありません。ですけれども、これまで行政、病院スタッフ、あるいは医局の先生方の努力によって名張市立病院も今、小児科医が 6 名になりました。それで、あとアルバイトの方 2、3 人をお願いしましたら、24 時間 365 日受けられる病院として、小児医療救急センターが開設できます。できることなら今年中に小児医療救急センターを開設したいと思っています。

ただ、予算的経費的な面でこれが黒字になることは頑張ってもないです。今、うちの病院もようやく入りと出が合ってくるころへ来て、黒字に転化していくかというところで、これをやってまた赤字に転落というのは、ちょっときついなという思いもありますが、しかし、子どもをお持ちのお父さん、お母さんにとっては悲願でもあります。伊賀でもそういうものはないので、医療過疎の特例としてなんとか県でもご支援をいただけないかと思っていますが、知事、いかがでしょう。

## 知 事

市長からご紹介ありましたように、市立病院で小児科医が 6 名になられたということで、医師確保にあたって市長が先頭に立って関係者の皆さんと一緒に取り組んで来ていただいた。今日も多分たくさんいらっしゃると思いますが、その皆さんのおかげでそこまで来たのは、本当に感謝と敬意を表したいと思っています。

そこで、小児医療救急センターの開設ということでは、人件費補助ですね。輪番で当番になった医師の人件費の手当分、この 24 時間 365 日で控えなければいけない人の手当、入ってもらった手当分については人件費の補助を出させていただきますので、そういうことももちろんですが、実際にセンターの開設の段になった時に、どういう費用をどういうふうに支援が必要か具体的に協議をさせていただきたい。名張市は、中勢伊賀保健医療圏なので、二次医療圏に小児医療救急センターは 1 箇所と国の小児救急医療拠点病院運営事業ではなっています。今は中勢、伊賀では三重病院がなっているので、そこがあるからいいじゃないかという議論になりかねないんですが、これまでのご努力やいろいろ

伊賀地域における特殊性もありますから、可能なことはしっかりやりたいと思います。具体的な協議をさせていただければと思いますので、よろしく願います。

## 名張市長

ありがとうございます。伊賀は特殊ですので、サブ医療圏ということで設けていただいています。ですので、その中で一つそういう対応ができる病院ができつつあるということで、これから具体の相談を担当とさせていただきたいと思っています。是が非でも今年中に開設していきたいという思いを持っていますので、どうかよろしくお願いします。

それでは、続いてですが、今まで申し上げた医療費の問題であったり、予防接種の問題であったり、小児の救急センターの問題であったり、これらは多額の費用を要します。それで、国の方でもやる気として消費税が上がった場合、子ども・子育てに7,000億円を確保し、組み替えてあと3,000億円足して1兆円にするという思いをお持ちですので、大いに期待させていただきたいと思っています。

そういう中で、これまで安心こども基金というのがあります。これは毎年、今年まで今年までと言い補正でつないできた経過があります。今、知事が先頭に立たれて知事会を束ね新しい基金を創設しようと国へ要請されているものでもよろしいですし、この安心こども基金をより充実させる、安定させる、そして、使い勝手のいい制度にしていってはどうかと思います。このことについて、かなり弾力あるものにしていけば、三重県特有のところへ配分もかなうわけですから、この点についていかがですか。

## 知事

今、市長からご説明のあった安心こども基金というのを少し説明しますと、20年度の末から毎年、年度末にこれだけといって、国から予算が来るかどうか毎年ぎりぎりまで分からない中で、主に保育所整備に使っているのが、安心こども基金です。ちなみに三重県では21年度から使っていますが、21年度、22年度、23年度、24年度、この4年間で安心こども基金を使って、定員でいうと県全体で約2,000人分の子どもたちの保育所整備を31箇所やらせてもらいました。

今年度25年度も285名分の保育所を県内につくっていくということで、2箇所の新築と4箇所の増改築に使わせていただいています。我々としても保育所の整備に、あるいは保育士の方の処遇改善にも使っていますので、安心こども基金はしっかりと恒久化していってほしいと国に申し上げているところです。

併せて、市長がさっきおっしゃっていただいた高齢者1人を現役世代何人で支えるかについては、2030年代ぐらいからぐんと落ちていって、1人で1人を支える時代が来ます。2030年は約20年後ですが、このときまでになんとか出生率や少子化について歯止めをかけていくことで、その傾きを変えていかなければならないと考えています。

フランスやスウェーデンも20年30年かかって少子化に歯止めをかけてきた。高齢者を支えるために少子化対策をやらなければならないということではもちろんないという前提のもとですが、フランスやスウェーデンも20年かかった。そう考えると、日本も2030年に向かって今やらないといけません。最近、どこかで「今でしょ」と言っていますが、今やらないといけない、そういう状態にあるというのを数字的に見ていただきたいというのと、これは先ほども少しありましたが、晩婚化と晩産化が進んでいる。2012年では第1子の出産年齢が全国平均でいくと30歳を超えたという状況になっています。

国が全国統一的にやったほうがいいという事業と、地方が地域の実情に合わせてやったほうがいいという事業と、そのお金は国で出すか地方で出すかというので4種類のパターンに分けて考えています。今、我々は、安心こども基金というのは国家的課題なので、国が予算を出した方がいいが、やり方は地方に任せてというのが、安心こども基金の領域なんですね。だから、ここは引き続き安心こども基金として出してほしいということと、併せて今、地方がそれぞれにやっている少子化対策や子育て対策を地方の実情に合わせてやっているけども、この部分についてやはり少子化が国家的課題なので、この部分について国で財源を取っていただきながら、やり方は地方に任せてほしいというようなことを提唱しているのが、少子化危機突破基金というものです。

なんで地方ごとにやるべきなのかということですが、三重県の中でさえ、子育てなどは地域によって状況が違うということです。未婚率と同居率を見ると、例えば名張市は、未婚率がやや高く同居率が低いところなんですね。ここは所得が高いところなんです。

つまり国のニュースとか聞いていると、少子化対策とか子育てってなんでも待機児童対策のように思いますが、何でもかんでもどこの地域でも待機児童対策をやればいいのかというのではなく、例えば名張市だったら未婚率がやや高いから、やはり結婚支援は重要だし、一方で同居率が低いから保育所整備も重要となってきます。三重県の南部では同居率が高いから、むしろ結婚支援とか、でも、所得が低いので若者の雇用をしっかりとやろうというのが少子化対策だったり、地域によって全然違うということですね。これは日本全国で見ると、昔は出生率は都会のほうが高かったけれども、今や、出生率が高いところは、どちらかというところだと地方であると。都会のほうが出生率が低いという状況なので、こ

の地方の実情に合わせて対策を取ることが、少子化に歯止めをかける一つの重要な視点になるということです。

今、市長がおっしゃっていただいた安心こども基金による保育所整備についても、我々が知事会としても言っている少子化危機突破基金についても、国家的課題なので国で財源を取りつつも、やり方は地方に任せてもらう。昨日、新聞にも出ていましたが、名張市には家庭的保育事業を県で初めてやっていたとということもありますから、そういう地方独自のやり方を認めていってもらうことが大事かと思っています。今、市長がおっしゃっていただいた提案については、我々も歩調を合わせて、共に強力に国に対して話をしていきたいと思っています。

### 名張市長

子ども・子育てというのは、県民こぞって県民の総力でやっていくべきことです。それで、私は県独自の基金を創設していただいたらどうかと思います。それは、例えば県民の方一人にワンコイン 500 円いただき、企業もちょっとご協力いただいたら、毎年5億円ずつになります。それを県の基金として、きめ細やかな対応に充てていただくということはどうでしょう。

### 知 事

今も、超過課税と言いまして住民税からちょっといただいて、それを福祉と中小企業とスポーツと環境の4つに使わせていただいています、それを福祉基金という形でその35%を充てています。今、毎年度の収入額が3億円ぐらいだと思いますが、その中から例えば不妊治療助成のお金であるとか、いくつかの子ども・子育て関係にも出させていただいています。新たに賦課をするのか、その中の割合を変えていくのか、今、中小企業支援の部分については、リーマンショック以来、ちょっとパーセンテージを上げていますので、景気の状態などを見ながら、そこを少し変動させていくのかも含めて、いずれにしてもその財源をどうするか考えたいと思います。新たに税をいただくというのは、今回、森林環境税をやるので、今の財源の中の組み替えで、県が補助事業でやり方を縛るのではなく、基礎自治体での使いみちが柔軟な基金のような制度、県独自のものをと思っていますし、この1対1対談でも、ほかの町さんからも一つ提案をいただいていますので、制度設計などを検討してみたいと思います。

### 名張市長

組み替えでしたらすぐに始めていただけますし、3分の1負担でもよろしいですが、できたら2分の1負担がいいですが、一度その組み替えに向けてお

考えただけならと思います。

それと、今、県は子育てと就労を両立している企業に対して表彰されています。そこで、出生率を上げている企業も顕彰されたらどうかと思いますが、いかがでしょう。

## 知 事

今、男女がいきいきと働ける企業表彰というのを知事表彰でやらせていただいています。女性が活躍している企業とかを表彰させていただいているのですが、市長がおっしゃっていただいたような表彰基準が今ないので、僕が表彰するより総理大臣に表彰してもらったほうがうれしいかと思って、今、総理大臣表彰の創設を国に言っているんです。もし国がやらなかったら、三重県でその表彰をやりたいと思っていますし、今、福井県が、企業子宝率といって企業での子どもの数の多いところを調べて、頑張っているところ、あるいは環境整備をしている企業を表彰しているので、県の事務方が勉強しているところです。そういう視点でもやっていきたいと思っています。

## 名張市長

ぜひお願いします。

### ② 生活困窮者への支援について

## 名張市長

それでは、生活困窮者の自立支援について所見をお聞きします。

貧困の連鎖を絶つということで、悲しいかな、わが国も親御さんが貧困なら子どもさんも貧困になる率が 25%の割合で起こってきています。我々もこれをどこかで絶っていききたいという思いがあります。

それで、今、法案が出されていたのですが、誠に残念なことに 6 法案の内の 2 つの法案が政局の中で消えましたが、これは市町村もすべて賛成し、各政党間の調整も終わっていたので、ぜひ、これは出していただくように考えています。ただ、幸いなことに予算上ではモデル事業の予算を通していただいていますので、名張市はこれからやらせていただくことになっていますが、一つは学習支援、もう一つは就労支援です。学習支援につきましては、今、すべての子どもさんに高校まで進学していただこうと、そんな中でこれから取組を始めるのですが、協力すると言ってくれた先生の OB の方 2 人を中心にそういう家庭へ行かせていただいたり、あるいは施設へ行かせていただいたり、そういうようなことをしていこうと思っています。

県は今、一人親家庭に対してのボランティアの募集をなさっています。制

度的に名張市とよく似ていますが、それを一人親に縛ることなく、一人親等にしていただいて、おじいちゃんおばあちゃんに育てていただいている子どもさんや施設の方にちょっと広げられたらどうかと思っておりますが、このことについて伺います。

## 知 事

今、県では一つは今年度からスタートした生活保護世帯の学習支援と、さっき市長がおっしゃった一人親の学習支援。生活保護世帯については、今、津と四日市と鈴鹿ですが、3つの市でモデル的にやります。一人親家庭の支援は今、津でやっています。23年度から、12箇所の児童養護施設での学習支援、今、この3つをやっています。今回、国の事業で名張市がやっていただくということもありますから、来年度に向けてどういう制度にしていけばいいのか、少しご相談させていただきたいと思っております。あと、就労支援もおっしゃっていたので、実際に働く先の企業開拓もぜひ一緒にやれたらと思っております。

## 名張市長

ぜひ、お願いします。今、名張市は就労支援については、引きこもりなどいろんな理由で社会参加できていない方に、農業を一つのツールに使いやっています。農業はみんなで一緒に協力してやっていく。これが、非常に効果があります。それを将来的に生業とするというのは別にしまして、社会参加していくことで中間就労としてやっていただいています。それとカフェをやっていますが、インターンシップをぜひやりたい。我々として開拓した市内の企業もありますが、それでは少ないので県内全域でインターンシップを受けていただくところを県として開拓をいただけたらと思っております。

## 知 事

おっしゃるとおりですね。インターンシップあるいは職業訓練的な部分での企業の開拓ですね。しっかり我々も協力させていただきたいと思っております。

## 名張市長

本当に今日も知事さんすべてに前向きなご答弁をいただきまして誠にありがとうございます。市民の皆さんも大いに期待させていただいておりますので、どうかこれから実を結ぶようによろしくお願ひしたいと思います。

### (3) 閉会あいさつ

## 知 事

亀井市長、どうも本当にありがとうございました。

それから、土曜日の朝にもかかわらず、本当にたくさん来ていただきました名張市民の皆さんにも感謝申し上げます。ありがとうございました。

自分も今、子育てに携わって思いますのは、一人ひとりの子ども、一つひとつの家庭によって事情が全然違うので、どうしても行政は画一的にやりたがってしまいますが、そうじゃないようにしていくにはどうしたらいいのかというのが大切なことだと日々思っています。

一方で、そういうふういきめ細やかにしていこうと思うと、私たち行政も、市も県も一所懸命頑張りますが、それだけではどうしても足りない部分があります。ぜひ、市民県民の皆さんの力を総動員して、みんなで子どもたちを守っていく、育てていく、その子育てをしている家庭を守っていく、育てていく、そういうことをしていきたいと思えますし、今日、そういう議論が市長と市民の皆さんの前でできたんじゃないかと思っていますので、我々も頑張りますので、どうぞ皆さん、力を貸してください。

今日はどうもありがとうございました。